

# 平成28年度 学力向上アクションプラン

区名	住吉区
学校名	大阪市立墨江小学校
学校長名	酒井美幸

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一侧面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全生徒
- ・墨江小学校では、第6学年 94名

## 平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 国語A（主として「知識」に関する問題）のみ、平均正答率が全国平均をわずか0.1%上回ったものの、国語B・算数A・算数Bは、いずれも全国平均を下回る結果となった。しかし、大阪市平均との比較においては、国語・算数ともすべて上回った。
- 課題としては、特に国語の「書くこと」に関連する設問で正答率が低いことが挙げられる。また、無答率も全国・大阪市平均をやや上回っており、特に、記述式の回答でその割合が高い。
- 質問紙調査からは、自尊感情や前向きに挑戦しようとする気持ちで肯定的な回答が低い傾向が伺われる。しかし、将来への夢や目標はしっかりと持っており、きまりを守ろうとする規範意識も高く概ね勉強を計画的にしようとする気持ちも強いことがわかる。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

- [国語] 漢字・ローマ字の読み書きは、平均正答率で全国・大阪市平均を3%以上上回っている。特に、漢字の読み書きは、ほぼ9割以上の正答率である。チャレンジタイムでの漢字学習の定着が考えられる。しかし、記述式で回答する設問の正答率が低いことから、あらゆる場面で「書く」活動に重点を置き、「書くこと」に対する抵抗感をなくしていく必要がある。
- [算数] どの領域も全国平均を下回る正答率である。特に、小数のわり算でつまずきが多くみられた。また、国語と同様、記述式で回答する設問についても低い正答率だった。一方、図形についての知識・理解・技能面では、比較的高い正答率が見られた。課題としては、特に、小数・分数の計算における基礎・基本の定着と「書く力」の育成が望まれる。

### 質問紙調査より

- 「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」「自分にはよいところがありますか」の質問項目については、いずれも全国・大阪市平均を下回る結果である。自尊感情については、ここ数年この傾向は変わっていない。自分で気がついていないのか、それとも自分に自信が持てないのか、あるいは謙遜した見方をしているのか、いずれかのことが考えられる。また、「失敗を恐れないで挑戦すること」、「困っている人を進んで助けること」については、いずれも消極的である。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」「学校のきまりを守っていますか」の質問については、全国・大阪市平均に比べ肯定的な回答が高いことから、計画的な学習の習慣が定着しており、規範意識も高いことがわかる。
- 授業の中でわからないことがあつたら、先生に尋ねるという回答も多く、全国や大阪市平均よりも高くなっている。

## 今後の取組

- 「書く力」を高めていく・・・「書くこと」に関連する質問項目のほとんどにおいて、全国・大阪市平均に比べ、肯定的な回答が低くなっていることから、まず「書くこと」に対する抵抗をなくしていく取り組みが必要である。そのためにも、あらゆる授業の中で、解き方や考え方、ふり返り等をノートに書く習慣を定着させていく。
- 家庭学習の充実・・・計画的に勉強し、宿題もよくしているものの、家庭での予習・復習の習慣が全国平均に比べ低い。特に、予習を「全くしていない」「あまりしていない」という回答が73.1%もあり、全国の56.6%をはるかに上回っている。このことから家庭での予習を保護者にも働きかけるとともに連携した取り組みを進めていく必要がある。
- 学級集団づくり・・・学級での話合いで意見をまとめたり、友だちと話し合って学級のきまりを決めたり、みんなで協力して何かをやり遂げたりすることを通して、集団づくりを進めていく。